

第 13 回持続可能な調達ワーキンググループ

開催結果概要

■日 時：2025 年 6 月 30 日（月）13 時 30 分～16 時 00 分

■場 所：万博会場会議室とウェブ会議システムによる併用開催

■出席委員：（五十音順・敬称略）

委員長：加賀谷哲之

委 員：有川真理子、井尻雅之、岡本圭司、門田隆司、崎田裕子、高橋大祐、富田秀実、
松井芳和、山田美和

オブザーバー：渡邊綱男

■議 題：

・調達コードの実施状況、今後の取組について

事務局から資料 13-2、資料 13-3 を説明し、委員から通報受付窓口、木材調査結果、熱中症対策、絶滅危惧種の扱い、SUS パトロール等に関して質問があった他、主に以下のような意見があった。

・通報受付窓口の存在が、職員・スタッフに十分な周知されていない状況が見受けられるので、改めての周知をお願いしたい。

・建設費の不払いは、会期末には解決できるよう、積極的な対応をお願いしたい。問題解決とともに、迅速な解決という観点も重要。

・万博の象徴とも言える「大屋根リング」に関しては、木材の適切な調達が行われたことを明確に示すことが望ましい。

・SUS パトロールが、よりポジティブな要素を引き出すための機会となるかが重要。

・SUS パトロールでは、使用後のリユース方法等も含めた取組事例を好事例として評価・発信するのが望ましい。

・プラスチックや、リユース食器、食品ロス等の取組について、万博会場全体規模で見ると一部に留まっているケースもある。将来的に必要なものについては、半歩先を見据えたレガシーとして、しっかり提案していくべき。

・調達コードの本来の目的は、環境や社会にどれだけ貢献出来るのかという部分にある。そうした貢献の内容や、コードへの遵守の在り方が非常に画期的であったり、新しい取組であったりする場合には、そうしたプラスの部分を評価し、良い形式で取り上げてもらいたい。応募しなければ表彰の対象にならないのか。応募が無くても評価に値するという取組がある場合には、表彰の対象としても良いのではないか。

・表彰制度について、最終的な調達の結果だけではなく、資源循環等の取組まで含めて、きちんと対応しているところが表彰されることが重要。万博での活動全体、取組全体を見た上で、表彰をしていきたい。表彰や評価は、事業者のやる気向上にもつながる良い取組であり、サステナビリティ全体の観点で、漏れなく努力しているところが正当に応援されるように、選んでいければ良い

・最終報告書について、大規模なイベントで経済的・心理的な効果等のポジティブな側面が多くある一方で、環境負荷等の課題も存在する。こうした点はしっかり継続して改善し、今後同様のイベントに向けて、持続可能性を高めるための一つの大きなベンチマークとしてアピールしてもらいたい。

・万博会場で持続可能性に関する展示が非常に充実しており、最終報告書には、協会が様々な取組を実施したことを含めてまとめることは非常に重要。また、様々なテクノロジーの面でも、技術のメリットを示す展示内容と、調達等の取組を上手く、広く融合させる形で、万博を通じて協会のサステナビリティへの取組が展示とともに将来に向けたレガシーとなることを示す報告書を期待する。

- ・最終報告書について、可能な限り情報を丸めず示してもらいたい。例えばパーム油、水産物、農産物等について、最終的にどういった結果だったのかという部分について、量や金額ベース等、様々な示し方があると思うが、出来る限り細かい数字があれば今後の類似イベントにも役に立つのではないか。

- ・SUS パトロールの取組についても、今後の参考として非常に重要。取組や結果、課題も含めて、出来る限り細かい事象も記載があれば役に立つ。

- ・中間レポートの発行について、現時点での情報を公開することで社会組織が関心を持ち、グリーンバンスへの反応につながると思う。また、レポート発行後に一般向けの公開セミナー等を開催し、広く一般へ周知いただけると良いのではないか。

・会場視察

調達コードに関連して、従業員食堂、会場警備員控室、大屋根リング、給水スポットの視察を行った。

以上